

事業所名

ドリトル竹の台

支援プログラム

作成日

2025 年

2 月

9 日

法人（事業所）理念		子どもたちの今を支え、未来を切り拓く One by One						
支援方針		「楽しく遊ぶことが自然な生きる力を育む」ように、「自然な遊びの中での療育」を重視しています。療育の場が、子どもにとって「つまらないトレーニング」にならぬよう心がけています。						
営業時間		平日(月～金)	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	○食事・排泄・着脱・準備・片づけ・移動などの社会生活スキルの獲得に向けた活動の設定、および利用児の状態像の応じた個別支援 ○連絡帳や送迎時の体調確認（保護者や保育者からの聴取に基づく）および保護者との連絡LINEを活用した利用児童の健康状態の把握。来所時および療育中の心身の状況の観察 ○準備物の準備（連絡帳や水筒等）や手洗い等、療育の流れを視覚的に構造化し、シンプルな反復練習を繰り返すことで園でのスムーズな生活につながるよう適応を支援する。						
	運動・感覚	○サーキットやふれあい遊び等、楽しく身体を動かしながら、感覚の統合や身体的な発達を促す ○利用児童の感覚特性（例えば過敏や鈍麻など）を理解した上での療育プログラムの提供。また、プログラムを通じて利用児童のペースで運動の幅や感覚の体験の幅を広げるよう促す。						
	認知・行動	○季節に応じた制作を利用児童の可能性（最近接領域）を理解しながら、達成感を感じられるように制作活動を支援する。自然な制作遊びを通じて、手指の巧緻性や認知能力を高めるようアプローチする。 ○毎回同一の「明確な時間枠の構造化」（30分の自由遊び・30分の設定遊び・30分の自由遊び）を活用（遊戯療法の理論を援用）による支援を重視する。子どもたちに見通しがある環境の中で、その流れを認知して理解した上で、「もっと遊びたい」「この続きがしたい」等の行動抑制が困難になった場面での適応力が高まる支援をする。 ○数を使う遊び（積み木やブロック等）や役割を用いた遊び（ままごとや戦いごっこ等）を通じて、概念獲得や役割の理解等の認知が自然と学べるような環境設定に取り組む。						
	言語 コミュニケーション	○子ども自身が小集団で発言をして、発表する場を設けることで言語コミュニケーションの反復練習を促し、自信をつけるように促す（はじまりの会の当番で子どもが前に座って他児の名前を呼んだり、一日のスケジュールをひらがなで読んだりする）。 ○設定遊びの中で支援者に要求を言葉で日常的に言うように促す（「貸して」「開けて」「ちょうだい」「ありがとう」等） ○他児とのトラブル等、謝罪や交渉など、適応的なコミュニケーションが求められる場合は、利用児童の特性を踏まえて、支援者が一緒に仲介したり、本人にコミュニケーションを直接取れるように促す。 ○遊びたいものを指差しや言葉で伝えられるように、写真カードを用いて、要求が伝えられるように配慮する。						
	人間関係 社会性	○支援者がそばに寄り添うことで、集団に参加する等、特定の大人との安心安全な環境（アタッチメント）で集団の人間関係への適応力を高める。不安が起こっても少しずつ自分で対応できるように支援する。 ○一人遊び～集団遊びなど、小集団の環境の中で利用児童の特性を踏まえて、遊びに自然な深まりや広がりが出るように支援する。 ○小集団での遊びを通じて、自分の強みや弱みについて利用児童自身が少しでも理解できるように促す。 ○利用児童のペースで信頼できる大人や一緒にいることが居心地が良い友達ができるよう支援する。						
家族支援		○「就学への見通し」「子育ての悩みへの具体的対応」「養育者のセルフケア」等のテーマを決めて毎年3回の保護者会を実施している。 ○保護者会の場で座談会を実施し、保護者同士の情報交換や安心感につながるよう交流の場を設定している。 ○保護者の困りごとやニーズに応じて、対面や電話、LINE等で個別に相談する機会を持っている。			移行支援		○就園年齢になっても幼稚園・保育園などの所属がない利用児童で、集団に所属することが重要だと思われる場合、保護者の思いを確認しながら、機会を捉えて就園につながるようサポートする。 ○必要に応じて、園出張し、利用児童の発達や特性を伝えたり、小学校の先生に利用児童の様子を見学に来てもらい、スムーズな就学支援につながるよう心がけている。	
地域支援・地域連携		○園や学校との情報交換 ○地域の医療機関との情報交換			職員の質の向上		○新任職員スタートアップ研修/現任職員スキルアップ研修等の専門職研修を、保育士・公認心理師・臨床心理士等の多職種で作成し、改訂を重ねながら実施している。 ○業務の合間を縫って、ショーとシェアリング・ショートカンファレンス等、支援の質を高め、職員のスキルを高める不断の取り組みを重ねている。	
主な行事等		○季節ごとのプログラム制作活動（桃の節句、端午の節句、ハロウィン、クリスマスなど） ○音楽生演奏・視聴体験（スタジオでドラムを叩く体験、クリスマスでギターやカホンを聞きながら鈴を鳴らす体験など）						